

# 西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2013年12月18日 Vol.116 発行者:森田正樹 編集:広報部

〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮4F 秘書国際課内

TEL:0798-35-3468 FAX:0798-32-8673 Mail:info@nleg.net

## 楽しかった忘年会

恒例のNLeG市民の会忘年会。今年は、阪急西宮北口のふじや本店で行いました。参加者が2名とちょっと淋しかったですけど・・・。

森田正樹会長の乾杯の音頭で始まり、それぞれ楽しい会話で盛り上がっていました。佐藤さんから、マリーノ手紙による近況報告。片山さんの素晴らしいシャンソン独唱、そして参加者一人ひとりのコメントをいただいて、あっという間に二時間が過ぎ、最後に全員の集合写真を撮り、お開きとなりました。  
(川野謙一)



### 新入会員ご紹介

#### ○岡田貴代江さん(広田町)

何年か前まで会員でした。3年前にフランス語の勉強をやめましたが、さいきんまた始めましたところ、フランス語の先生がアジャン出身で再びロットエガロンヌに興味を持ちました。又、ご尊敬申し上げます佐藤祥子先生がクラスを持っておられることを知り、是非先生にご教授願いたく存じました次第です。

#### ○田中千鶴さん(木津山町)

フランス語サークルや文学、語学に興味がありますので、よろしくお願ひします。

#### ○友添博章さん(高須町)

59歳。哲学・芸術一般に興味ありのオタクです。フランス語講座で学びたいと思ひ入会しました。

## 忘年会のご報告

12月に入ってはじめての土曜日、早めの忘年会が西宮北口のフジヤ本店のパーティールーム貸切で催されました。参加者は22名と少なかつたものの、穏やかで、なごやかな良い時間を過ごしました。幹事を務めて下さった川野さん、ありがとうございました。

5時半過ぎから店の前に森田会長みずから立ち、一人また一人と到着する会員さんを誘導、自転車でやってきた人には駐輪場所の確保をしてくださるなど、きめ細やかなお出迎え。会場では藤川夫妻が会計関所を手堅く守り、本日のディーバ、片山さんは早くからいらして音響調整、席順決めのかじ引きを率先して作って下さる方あり、NLeGの長年のチームワークは、大した事前の打ち合わせなしに、すべて阿吽の呼吸で發揮されました。

ビールで乾杯の後はひとしきり食事と各テーブルでの会話に専念、ころあいを見計らってお待ちかね、片山由紀子さんのシャンソンです。イブ・モンタンの『枯葉』、エディット・ピアフの『バラ色の人生』などを美しいフランス語と魅惑の低音で聴かせてくださいました。数年前にアマチュアのシャンソンコンクールに入賞された後、現在ではあちこちのディナーショーやライブハウスからもお声がかかり、セミプロの活躍をしておられる片山さん、ありがとうございました。

恒例の自己紹介では、来年7回目の年男(!)と告白された越智画伯から、29歳になられた、最年少の末政さんまで、また会員歴の長い方から比較的最近入会された方まで、ほんとうにさまざまな年齢層、ご職業、ご趣味の方々がおられることを再認識し、「フランス/ロット・エ・ガロンヌ」というキーワードだけで、こんなにも長く、なごやかに付き合えることに、深い感慨を得た時間でした。

最後に佐藤より、マリーさんから来たばかりのニュースをお知らせいたしました。

来年4月3日～18日まで、画家である友人のクリステルさんという女性と共に来日予定。そのあとでもう二人、「西宮の友の会」の会員の女性二人もいらっしゃるとのこと。同時期にシシルさんも来日し、日本初めての方たちの案内を担当、日本通の超リピーターであるマリーは独自のプランをいろいろとたてているそうです。その予定には京都の美山、天の橋立、伏見、琵琶湖、彦根城、信楽の窯、ミホミュージアム、松江、足立美術館、高松、直島(安藤忠雄の美術館)などなど、さすがの通メニューが並んでいます。

通といえば、マリーさんは日本文化について勉強しては、フランスで講演会を開催しています、日本の風景、建築、浮世絵と日本美術、日本の城、などのテーマで。自分で勉強して、自分のできるところで、熱心に日本文化の紹介、日仏相互理解と交流に献身しているマリーさん、本当に見上げたものです。森田会長からは、『我々もマリーを見習ってもっと自国文化もフランスの文化も勉強せなあ』との奮起をうながすスピーチがありました。

また、秋には何人かの小グループを率いて、日本の紅葉をめぐる旅も企画中とのこと。私たちも、それぞれができるところで、楽しく、遠来の友人たちを歓待し、その滞在を通して、日本をよりよく知っていただけるよう、また友情を深められるよう、今後も力を出し合っていきたいものですね。

来年もまた、皆様よろしくお願いたします。



マリーの孫ロビン君の作品

Joyeux Noël et Bonne Année !!

(佐藤祥子・記)

12月には日本でも神戸ルミナリエをはじめ、中之島イルミネーションなど大掛かりな「光の芸術」が日本各地で見られるようになってきました。その華やかさは見事で、実際足を運ばなくとも、テレビのニュースでみるだけでも迫力があります。



フランスも11月末から翌年1月初旬にかけて、各地で電飾が施されます。日本の大都市や商業施設の電飾のように派手な、人々を圧倒する「強い光」ではありません。フランスでは大都市のみならず田舎の小さな村も、各市町村の「大通り」にあたる道を、電柱などに沿って光で飾りつけているのです。その準備は早い時点で10月くらいから始まります。日本のように突貫工事という感覚はないので、ゆっくり1本ずつワイヤーをかけていき、昼間に飾りつけていくのです。

「いつ点くのかな～。今年は少し早めに点けてくれるかな？」とわくわくしながら想像しても、きっちり11月末のマルシェ・ド・ノエル（クリスマス市）開催時期に合わせてきます。中規模の都市であってもフランスの街には商店などの電飾看板が少ないため、年末の電飾はシンプルなものでくっきりと夜空を彩ります。主張しすぎない、なんとも品のよい光です。



今考えてみると、日本では普段から夜遅くまで強い光を放つ各所の看板に対抗するため、クリスマス電飾はより強力な光を必要としていたのですね。いわば、繁栄の光です。

少ない光でも、おしゃれに街を装うのがフランスで、今日本でも流行りの「プロジェクションマッピング」（パソコンで作成したCGとプロジェクターのような映写機器を使用して、建物などに映像を映す技術。）は、日本より少し早い時期から積極的に採用されていました。田舎都市の市役所や教会が映像を投写され、アニメーションの世界から抜け出たように建物が生き生きしていました。人々だけでなく街全体がクリスマスに浮かれてダンスしているようでした。



小さな村では、更に単純な形（星など）の電飾がぼつぼつと電柱などに沿って飾られています。

LED が使用されていない場合、ところどころ電球が切れていたりして、ゆらゆらと小さな光を放ち、生きているかのようです。村の夜はよろい戸で囲まれているので、外から家の中の光がほとんど見えないため、この小さな電気の光はとても大切です。ああ、人が住ん



でいるのだな、皆クリスマスを楽しみにしているのだな、と温かい気持ちが湧いてきます。小さな光が人々の息遣いやクリスマスと新年への思いをも感じさせる…希望の光です。

車で遠出した帰り、真っ黒な何もない林道を走り抜け、時々小さな村の小さな光を通り過ぎる度、心にも小さな光がぼつと点ります。

村を通り越した後、寂しい田舎道の脇で停車して、思い切って車のドアを開け寒い外へ出てみます。冷たい空気を一息吸い、肺がきりりとしながら見上げると、冬の夜空には満点の星です。漆黒の空に降るような星がきらきらと光を放っています。きれいだなあ、と息を呑みながらも「早く人工の光の街へ急ごう。」と再び車に乗り込むことが、フランスの冬の夜の思い出です。

### 第 17 回スケッチ旅行会作品募集

恒例のスケッチ展を今年も提携記念日の 4 月 17 日の週に北口ギャラリーで開催いたします。昨年も新しい方の参加がありましたが、さらに募集したいと思います。

今年もマリーさんが会場に来てくれるかも。

- |      |   |
|------|---|
| 会期   | 平成 26 年 4 月 15 日（火）～20 日（日）<br>前日搬入、最終日搬出     |
| 会場   | 西宮市立北口ギャラリー 第3展示室（アクタ東館 6 階）                  |
| 作品   | ロット・エ・ガロンヌ県及びアジャン市にちなんだ絵画もしくは写真作品（それ以外の作品も可）。 |
| 出品点数 | 一人 2 点程度（10 号程度）                              |
| 出品申込 | 2 月 21 日までに市民の会事務局 Fax 0798-32-8673 へ         |
| 参加費  | 5000 円程度                                      |
| 当番   | 会期中 1, 2 回の作品当番をお願いいたします。                     |
| 問合せ  | 森田まで（昼間 大谷美術館 Tel 0798-33-0164）               |